

令和4年度 学校経営計画及び学校評価案

1 めざす学校像

<p>全日制普通科単位制高校として、高き志を胸に、変化の激しい社会の中で、人生100年時代の社会人基礎力を視野に、自らの未来を切り拓き、個性と能力を発揮できる「天高く翔る」人材の育成をめざす。 (めざす生徒像)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できる生徒 2 解決すべき課題にしっかりと取り組むことができる生徒 3 主体性をもって多様な人々と協働できる生徒

2 中期的目標

<p>1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。 (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。 (2) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの充実をめざす。 (3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。</p> <p>2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。 (1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図る (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。 (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。</p> <p>3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する (1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。 (2) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。 (3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。 (4) ノークラブデーや学校休業日を確実に実施するとともに、時間外労働が月80時間以上の教員が減少させていく。</p> <p>※ R06 は国公立大学進学者70名(R01 44名、R02 53名、R03 54名)、難関私立大学合格者200名程度(R01 195名、R02 246名、R03 名)をめざす。 ※ R06 までガイダンスに係る生徒の満足度90%以上を維持する。(ガイダンス R01 97%、R02 98%、R03 94%) ※ R06 は進路指導に係る生徒の満足度90%以上とする。(進路指導 R01 89%、R02 89%、R03 86%) ※ R06 も授業理解の肯定的評価80%以上を維持する。(R01 75%、R02 80%、R03 81%) ※ R06 は生徒の自己管理能力の肯定的評価80%(R01 77%、R02 78%、R03 78%)、生徒・教職員とのギャップを20%未満とする。(R01 30p、R02 18p、R03 23p) ※ R06 は生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」が85%以上を維持する。(生徒：R01 78%、R02 84%、R03 88%、保護者：R01 89%、R02 89%、R03 89%)</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
----------------------------	--------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R3年度値)	自己評価
1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるように「前に踏み出す力」を育成する。	<p>(1) 主体性 生徒が主体的に取り組む教育活動を充実させる。</p> <p>(2) 働きかけ力(教員) 学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動への移行を図る。</p> <p>(3) 実行力 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。</p>	<p>【物事に進んで取り組む力】 ア 総合的な探究の時間、LHR等を改善充実させ、計画的に実施する。 (ア)進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫及び大学、教育産業等の活用 (イ)長期休暇中等の講習を継続・充実</p> <p>【他人に働きかけ巻き込む力】 ア 新学習指導要領の導入に合わせて観点別学習状況評価を本格実施し、主体的・対話的で深い学びや英語4技能育成のための授業実践につなげる。 イ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報共有を推進する。その際、外部テストやスタディーサプリ等の学習教材も積極的に活用して効率・効果を高める。</p> <p>【目的を設定し確実に行動する力】 ア 生徒の進路意識を高め、最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 (ア)全教員によるガイダンス(年2回)及び科目選択申請書点検。 (イ)学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 (ウ)専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 (エ)科目選択モデル案の改善</p>	<p>ア (ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を73%以上とする。 (イ)「生徒の講習への参加状況」を3年71%以上、全学年37%以上とする。</p> <p>ア「生徒の授業理解」を81%以上とする。 「生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を教員75%以上、生徒95%以上とする。 イ・大学入学共通テスト受験者の国語、数学、英語の平均点が全国平均を上回る。 ・「生徒の自学自習時間」について平日1～2時間29%以上、2時間以上43%以上とする。</p> <p>ア (ア)「生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている」を73%以上とする。 (イ)「ガイダンスへの肯定的評価」を94%以上とする。 (ウ)「将来の生き方や進路について考える機会の提供」を86%以上とする。 (エ)「コース選択や進路情報の提供」を88%以上とする。</p>	

<p>2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。</p>	<p>(1)課題発見力(教員) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。</p> <p>(2)計画力 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みの充実を図る。</p> <p>(3)創造力 カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善を進める。</p>	<p>【現状を分析し目的や課題を明らかにする力】 ア 校内教職員研修の充実を図る。 (ア)教科を超えた授業見学や若手教員の資質向上を図る取組みを推進する。 (イ)ICT活用授業委員会を起点に、ICTを活用した授業実践や長期欠席生徒の支援に向けた教員研修の実施や好事例の共有等に努める。</p> <p>【課題の解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力】 ア 学校行事等の創意工夫に努める。 (ア)生徒自治会・委員会の活動を中心に実施する。 (イ)学年や学校行事等との連動を意識して実施する。</p> <p>【新しい価値を生み出す力】 ア カリキュラム・マネジメントを推進する。 (ア)カリキュラム委員会やICT活用授業改善委員会等を核に教育活動を俯瞰して検討を進める。 (イ)データ処理や情報共有を工夫して、授業アンケート、外部テスト等の結果を授業改善に生かす。</p>	<p>ア (ア)教員相互の校内授業見学週間の実施 若手教員研修を核に校内研修・情報交換会を年3回は実施する。 (イ)校内研修1回、好事例の共有3回</p> <p>ア (ア)「自治会活動の有用感」を80%以上とする。 (イ)「自分は積極的に学校行事に参加した」を91%以上とする。</p> <p>ア (ア)新しいカリキュラムの整備状況 ・授業におけるICTの活用をテーマとした校内研修・情報交換会を年3回は実施する。 ・「教員のICT機器の活用」について、教材研究を88%以上、授業を79%以上とする。 (イ)外部テストの結果分析会等の実施状況 「生徒の授業理解」を81%以上とする。 ※再掲</p>	
<p>3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「チームで働く力」を育成する</p>	<p>(1)発信力 傾聴力 柔軟性 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。</p> <p>(2)状況把握力 地域や外部機関等と連携する。</p> <p>(3)規律性 ストレスコントロール力 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立、安心安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>【自分の意見をわかりやすく伝える力】 【相手の意見を丁寧に聞く力】 【意見の違いや相手の立場を理解する力】 ア 人権HR、人権映画鑑賞や教職員人権研修を柱に据えて取り組む。 (ア)新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と理解を深め、いじめや差別防止等の喫緊の課題への取組みを継続する。 (イ)各種学校行事、史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテストやビブリオバトル、プレゼンテーション大会等を活かして、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>【自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力】 ア 地域や中学生等への広報の充実を図る。</p> <p>【社会のルールと人との約束を守る力】 ア 日常生活指導と強化週間とを効果的に連動させる。 (ア)登下校時の安全指導(特に自転車指導)の継続 (イ)「朝の読書」の時間やSHRの活用 (ウ)「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図るとともに、外部テストやスタディーサプリ等の学習教材も積極的に活用して家庭学習の定着を図る。</p> <p>【ストレスの発生源に対応する力】 イ 教育相談委員会やスクールカウンセラーとのケース会議を通して、課題を抱える生徒の情報共有、適切な対応を進める。 (ア)教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。 ウ 月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を継続して行う。</p>	<p>ア (ア)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を85%以上とする。 ・「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる」を76%以上とする。 (イ)「授業などで自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある」を95%以上とする。</p> <p>ア 学校HPの利用状況の向上 ・保護者「学校のホームページ・ツイッターをよく見る」を59%以上とする。 ・教員「情報提供の手段として、学校のホームページ・ツイッターが活用されている」を88%以上とする。</p> <p>ア (ア)「学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている」を88%以上とする。 (イ)遅刻登校者数を3,000件未満とする。 (ウ)・生徒の自学自習時間を平日1～2時間29%以上、2時間以上43%以上とする。 ・部活動加入率を88%以上とする。 ・学習と部活動の両立ができている」を66%以上とする。 ・生徒の「自己管理能力は十分にある」を78%以上とし、教職員とのギャップを23p以下とする。</p> <p>イ (ア)「悩みが相談しやすい」を51%以上とする。</p> <p>ウ ノークラブデー等の完全実施。 月80時間以上の時間外労働教職員数を17名未満とする。</p>	